

上北沢桜並木：「ひこばえ剪定」作業 報告書

実施日：2008年5月15日（木）

参加人数：6名（野口ご夫妻、青木さん、井上さん、荒井さん、佐藤）

前日までは雨や寒さで、5月とは思えないお天気でした。「ひこばえ剪定」どころではないと思っていましたが、当日朝になってすっかりと晴れ上がり、五月晴れとなりました。

さて、5月15日朝10時いつものように昭和信金前に集合しました。

「ひこばえ剪定」作業は、春の新緑と共に発生する育成に不必要な枝を切除することで、樹形を整えるという意味があります。何より、桜並木にとって、ひこばえや胴吹きがあること程、管理の無さを象徴します。

作業は、3人一組で行い、一人は自動車や通行人に注意を払い、一人が剪定、一人が剪定補助を行うこと。並木道での作業実施にあたり作業員、通行人等の安全確保に十分留意することを事前をお願いいたしました。

持参した道具は、剪定のこぎり、剪定バサミ、ビニール袋でした。

参加していただく方には、長袖の衣服を必ず着用、手袋をご持参していただきました。



作業内容：

作業は、6名で、2班に分け、第一グループ3名は、根元に近いヒコバエを剪定しながら袋につめる作業を行いました。別の3名のグループは、はしごに登り、主に胴吹きの剪定を行いました。

《作業中、気が付いたこと》

- ・毛虫の発生が既にあること。
- ・29では、樹形を整える枝を育てることを期待して、幹の傾きとは反対方向に出ている枝を3本残しました。
- ・9には、胴吹きが4～5本出ていたが、その内の1本を残し、剪定を行いました。
- ・42は、葉が薄く、葉の量も少なくなっています。これは、根に問題があるの



ではないかと考えられます。

- 22のひこばえは、葉緑素の無い葉が出ていて、余り見られないということで残しました。今後とも、切らないでいただきたいと思ひます。

